

教育研究業績書

2022年05月09日

所属：英語文化学科

資格：准教授

氏名：K. A. バート

研究分野	研究内容のキーワード
応用言語学、第二言語学習得、日本学、社会文化人類学 Applied Linguistics, Second Language Acquisition, Japanese Society, Culture and Anthropology	SLA, CLT, Translanguaging, Japanese Studies.
学位	最終学歴
博士（応用言語学） Doctor of Education (USQ) 修士（日本学） MA in Advanced Japanese Studies (Sheffield) 修士（応用言語学） Master of Applied Linguistics (USQ) 準修士（教育学） Graduate Diploma in Secondary Education (VU) 学士（日本学・言語学） Bachelor of Arts (La Trobe)	Doctor of Education- University of Southern Queensland オーストラリア国立サザンクイーンズランド大学言語教育研究科応用言語学専攻博士 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 教育方法	2005年1月現在	<p>学生各個人の学力だけでなく、性格や環境などのバックグラウンドをできるだけ把握し、接し方や、それぞれのレベルに合わせた課題の提供を検討する。</p> <p>外国語の授業として、実践的な英語を教化するための教材を作成し、英語を聞く・話す・読む・書く機会を与える。アクティブラーニングやタスクに基づく言語学習の中心に、トランス・ランゲージングを使用し、学生の理解を深める。</p> <p>社会学の授業において、異文化の見解の相違について話し、国際関係の理解を高める。学生が意見を交わすためにDebate and DiscussionやPresentationを実施し、考える機会を与える。</p> <p>修士と博士学生の論文や発表の指導をし、研究に関するアドバイスをする。</p>
2 作成した教科書、教材		
1. 平松学園の教材	2005年7月24日から2016年3月31日	高校生・短大生のコミュニケーション、リーディング、ライティングの教材作成。留学生の日本語教材作成。海外研修引率。
2. 関西学院大学の教材	2016年4月1日から2019年9月20日	千刈英語集中講座のHomework Pack 作成、オープンキャンパス体験授業構築。大学レベルのコミュニケーション、リーディング、ライティング、EAP、ESP、TOEIC、科学技術英語教材作成。
3. 鳥取大学の教材	2019年10月1日から2021年3月31日	コミュニケーション教科書作成・編集、実践英語A・B教材作成、総合英語3・4教材作成、英語教育カリキュラムガイド作成、イマーシブプログラム作成。
4. 武庫川女子大学の教材	2021年4月1日から現在	英語ライティング演習の教材作成、ビジネスライティング教材作成、リーディング教材作成、現代コミュニケーション教材作成、論文英語演習教材作成。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. ベイサイド高等学校	2005年1月23日から2005年6月30日	<p>高校教員</p> <p>担当科目：外国語としての日本語、英語、英語文学、社会学。</p>
2. 平松学園	2005年7月24日から2016年3月31日	<p>高校教員で国際コースと特進コース担当。留学プログラム担当、部活顧問、英語弁論大会・暗唱大会の指導。担当科目：オーラルコミュニケーション、英語ライティング、英語リーディング、英語会話、コミュニケーション英語、入試英語、留学生の日本語、留学生の日本社会。</p>
3. 関西学院大学	2016年4月1日から2019年9月20日	<p>関西学院大学理工学部の常勤講師で、外国人オフィス管理人、千刈英語集中キャンプのコーディネーター、理工学部のELR教務会のメンバー。担当科目：コミュニケーション、リーディング、ライティング、科学技術英語。</p>

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4. 鳥取大学	2019年10月1日から2021年3月31日	鳥取大学教育支援・国際交流推進機構教育センター外国語部門の准教授。すべての外国語科目の担当、大学入試作成・監督・採点、センター試験監督、オンライン授業設置、常勤・非常勤講師のオンライン授業に関する説明会担当、E-Learning指導。担当科目：コミュニケーション英語、実践英語、総合英語、上級英語。
5. 武庫川女子大学	2021年4月1日から現在	武庫川女子大学英語文化学科の准教授。外国語教育推進室委員、外国人非常勤講師コーディネーター委員会、文学部教授委員会のメンバー。担当科目：大学で学生担任（ホームルーム）、現代コミュニケーション、ビジネスライティング、ライティング演習、リーディング。大学院で論文英語演習。
4 その他		
1. 高文連の弁論・暗唱・ディベート大会指導と審査員	2005年7月26日2016年3月31日	毎年、高校生のスピーチや暗唱、ディベート大会の指導と審査。
2. 千刈英語集中講座のコーディネーター	2017年4月から2019年9月	関西学院大学理工学部の3・4年生の一週間千刈英語集中講座のコーディネーターで、千刈キャンプ場に引率、プログラム作成など。
3. 教育支援・国際交流推進機構委員	2019年10月から2021年3月	鳥取大学の教育支援・国際交流推進機構委員で、教育センターのコース開発、留学生サポートなどしました。
4. 夏のイマージョンプログラム担当	2020年8月23日から2020年8月26日	鳥取大学夏休み期間中イマージョンプログラムのコーディネーター。プログラム作成、講師の指導などしました。
5. 外国人非常勤講師コーディネーター委員会	2021年4月1日から現在	外国人非常勤講師のコーディネーターで、すべての授業や教務に関するサポートをしています。
6. 外国語教育推進室委員	2021年4月1日から現在	大学全体の英語教育を推進するための委員会。
7. 特別ゼミ	2021年6月23日	アメリカ分校から帰った学生のための特別ゼミを教えました。テーマは「第一と第二言語を生かすためのトランスランゲージング法」
8. 教員免許のための英語面接練習	2021年7月6日から現在	小・中・高の教員免許を取得したい学生の英語面接練習を担当しています。毎年行っています。
9. オープンキャンパス	2021年8月10日	英語文化学科での「オープンキャンパス英語体験授業」を行って、保護者と相談しました。
10. 第37回武庫川学院英語オラトリカルコンテスト	2021年11月20日	大学生スピーチコンテストの審査員
11. 高3年入学前講義	2022年2月16日	武庫川女子大学を入学する前の武庫川女子高校三年生対象の「Critical thinking in the English classroom」講義を行った。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 上級日本語講座修了	2006年5月	財団法人自治体国際化協会
2. 教員免許取得	2007年現在	ビクトリア州教員教育委員会登録「登録番号：334398」
3. 通訳・翻訳講座修了	2007年3月	財団法人自治体国際化協会
4. 日本語能力試験1級JLPT N1	2010年	国際交流基金と日本国際教育支援協会
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. バイサイド高等学校	2005年1月23日から2005年6月30日	バイサイド高校の教育実習（日本語とESL）。
2. 平松学院	2005年7月24日から2016年3月31日	高校・短大の教諭、HP担当、部活顧問、英語教育開発。
3. 関西学院大学	2016年4月1日から2019年9月20日	ELR教務会のメンバー、外国人オフィス管理人、千刈英語集中講座コーディネーター。
4. 鳥取大学	2019年10月1日から2021年4月1日	教育支援・国際交流推進機構全体会議教務委員、教育センター会議の教務委員、外国語部門英語非常勤講師担当、大学入試作成・監督・採点。
5. 大学院指導	2020年7月1日から現在	大学院論文指導、博士論・修士論の外部審査官。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
6. 武庫川女子大学	2021年4月1日から現在	文学部教授会委員、入試会委員、外国語教育推進室委員、外国人非常勤講師コーディネータ委員、英語文化学会委員、大学院学生指導。
4 その他		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
-------------	---------	-----------	-------------------	----

1 著書

--	--	--	--	--

2 学位論文

1. Communicative teaching: An investigative study of foreign language teachers' perceptions towards CLT and the new curriculum.	単	2011年9月3日	オーストラリア国立サザンクイーンズランド大学大学院の修士論文 Master of Applied Linguistics thesis, University of Southern Queensland	オーストラリア国立サザンクイーンズランド大学大学院教育学研究科応用言語学研究専攻修士課程の卒業論文。「コミュニケーション言語教育と日本の新カリキュラム：教師の意見についての調査」二つの高校に勤めている教師にアンケートとインタビューを実施し、コミュニケーション言語教育の経験や教師の抱く新カリキュラムの不安などについてまとめ、分析した。
2. Sex and the Japanese: An investigative study of married couples, LGBT identifying individuals and Red-Light district workers in regard to their gender roles and sexual practices	単	2011年11月4日	英国国立シェフィールド大学大学院の修士論文 MA thesis, University of Sheffield	英国国立シェフィールド大学大学院東アジア研究科日本研究専攻修士課程の卒業論文。「田舎に住んでいるセックスレス夫妻・同性愛者・水商売に関するセックスとジェンダー」主にインタビューを中心に上記の人たちの意見を聞き、その結果をもとに、田舎に住んでいる日本人の同性愛者・セックスレス夫妻・水商売の日常生活のつらさについての論文を提出した。
3. Teachers' and students' experiences within the Communicative Language Course of Study in Japan: An instrumental case study	単	2020年8月31日	サザンクイーンズランド大学大学院の博士論文 Ed.D thesis, University of Southern Queensland.	オーストラリア国立サザンクイーンズランド大学大学院言語学研究科応用言語学専攻博士課程卒業論文。「コミュニケーション言語教育と日本の新カリキュラム：日本社会でどのようにしてCLTを上手く使うか」社会学や日本文化について調べ、アンケートとインタビューを実施し、教師の意見と卒業生の意見を調査した。コミュニケーション言語教育の経験や教師の新カリキュラムの不安などについてまとめ、意見を述べた。

3 学術論文

1. 語学クラスにおけるイマージョン（没入法）：Immersion in the language classroom	共	2007年7月	第46回九州地区私立高等学校研修会研究集録。P. 197-207 査読：無	藤原和彦との共著。オーストラリア公立ベイサイド高校で行ったイマージョンプログラムを大分私立大分東明高等学校の英語クラスに用いた際の、プログラム作成の過程と生徒の理解度調査の結果を発表した。その後発表に関する質疑応答を行った。
2. Japanese teachers' attitudes towards incorporating CLT in the high school English Language classroom : An ethnographic study.	単	2017年2月	Kwansei Gakuin University Humanities Review. Vol 21. P. 93-104. ISSN: 1342-8853 査読：有	コミュニケーション言語教育と日本の新カリキュラム：教師の意見をまとめた論文。二つの高校に勤めている教員たちに新カリキュラムが始まる前とその後にアンケートとインタビューを実施し、コミュニケーション言語教育の経験を述べてもらい、新カリキュラムを実施してどのような効果があったのかを調査した。
3. Personality profiles, learning	共	2017年2月	Kwansei Gakuin University	モレノ・オードリとの共著。日本人の学生に性格診断テストを行い、そのデータの結果を述べ、具体的に日本人学生にどのように授

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
styles and the Japanese University student : An exploratory survey.			Humanities Review. Vol 21. P. 73-80. ISSN: 1342-8853 査読：有	業を行うべきかを説明した論文。
4.The divide between policy and pedagogy in EFL high school classrooms in Japan	単	2017年11月	PEOPLE: International Journal of Social Sciences. Vol 3 (3).P.198-217. ISSN:2454-5899 査読：有	日本のコミュニケーション言語教育と新カリキュラムのインプリメンテーションについての論文。教育における授業を企業にどのように生かすことができるのか、という問題について調査し、教員の意見をまとめた。また、推奨するカリキュラム、及びクラス別の差についても述べた。
5.The use of L1 in L2 classrooms in Japan: A case study of university student preferences.	単	2018年2月	Kwansei Gakuin University Humanities Review. Vol 22. P. 71 - 80. ISSN: 1342-8853 査読：有	英語授業の学習環境設定について日本人の学生に調査。学生からは、バイリンガルの教員からよりたくさん学べるという意見が出た。バイリンガル教育の論理を述べて、どのように教えればより学生に効果的かという内容も述べた。
6.Applying translanguaging techniques in Japanese EFL settings.	単	2018年6月	IAFOR: The Asian Conference on Language Learning. Official Proceedings, 2018 Vol.1 (1). p. 239-251. ISSN : 2186-4691 査読：有	日本語と英語を一つの言語システムとして捉え、学生のアクセスができる資源として使えるというトランス・ランゲージングについての論文。二つの言語を同時に使えば、より学生の理解力が高まるという点を明らかにした。4つのクラスで調査し、二つのクラスでトランス・ランゲージングを使って、残りの二つのクラスでは使わずに、学期末のテスト結果や英語プレゼンの結果について分析し、学期末のアンケートの結果をまとめて述べた。
7.The influence of Socio-Cultural Constructs on Educational praxis in Japan.	単	2019年2月	Kwansei Gakuin University Humanities Review. Vol 23. p. 73-82. ISSN: 1342-8853 査読：有	日本社会学理論で内・外や、先輩・後輩などの社会現象について説明し、教育活動や授業にどのような影響があるのかを述べた。
8.Teacher Praxis in the Course of Study Guidelines in Japan: An Empirical Analysis	単	2020年8月	Australian Journal of Applied Linguistics, Vol 4 (2).p. 168-182. ISSN: 2209-0959 査読：有	高等学校英語の新カリキュラムにおける英語科教員の経験を探ったものである。21名の教員にアンケートとインタビューを実施した。その結果、教員は自身の英語コミュニケーション能力に自信がないこと、言語教育の指導方法を完全に理解していなかったこと、職場環境によりコミュニケーション重視の授業が実施できなかったため新カリキュラムの目標に到達できなかったことが明らかになった。
9.An Analysis of student' s experiences within the Communicative Course of study in Japan.	単	2021年3月3日	Tottori University Education Center Bulletin. Vol. 17. p. 43-64. ISSN: 2433-7862 査読：有	高等学校英語の新カリキュラムにおける学生の経験を探ったものである。77名の学生にアンケートを実施し、インタビューを行った。その結果、授業中に教員が英語を話す機会を与えてないこと、もっとコミュニケーションをとりたいこと、センター試験（大学入学共通テスト）の影響が大きいため新カリキュラムの目標に到達できなかったことが明らかになった。
10.Translanguaging: Theoretical and Pedagogical Implications in the Japanese ESP classroom	単	2022年1月7日	OnCUE Journal Special Issue, Vol. 3, p.15-33 ISSN:1882-0220 査読:有	本研究は日本の大学のESP授業において実施したトランスランゲージングのアプローチについて報告するものである。本稿ではまず、トランスランゲージングの理論的背景を紹介し、英語の授業において学習者のL1（日本語）を取り入れることの利点を心理言語学、社会言語学、教育的視点から論じる。その後、授業内容の概説を通じて、トランスランゲージングがいかに学習者の言語リテンション、伝達アウトプット、動機付けの増大をもたらしたかを記述する。参加者は、90人の日本語を母語とする理工学専攻の大学生で、大学における必修としての英語授業を履修していた。当該英語授業では、

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				専攻する理工学に関するトピックについての小論文の執筆や発表を行った。その結果、トランスランゲージングを用いて学習者の言語レパートリーの全てを活用させることが、動機付け、言語産出、学習内容の保持、認知方略の増大につながる事が明らかとなった。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 語学クラスにおけるイマージョン（没入法）: Immersion in the language classroom	共	2007年7月	第46回九州地区私立高等学校研修会（7月26~27日）	九州地区私立高等学校研修会の大会に藤原和彦先生と発表した。オーストラリア公立ベイサイド高校で行ったイマージョンプログラムを大分市立大分東明高等学校の英語クラスに用いた際の、プログラム作成の過程と生徒の理解度調査の結果を発表した。その後発表に関するQ&Aを行った。日本語で発表。
2. 日本でのコミュニケーション言語教育。(Communicative Language Teaching and the New Curriculum)	単	2012年10月	全国語学教育学会・大分部（10月27日）	日本のコミュニケーション言語教育と新カリキュラムについて発表。南クイーンズランド大学院の卒業論文に行ったデータの説明やコミュニケーションを中心する教育方法などについて話をした。そのあと質疑応答を行った。
3. The implementation of CLT in Japanese High Schools: Organizational hindrances to a smooth transition	単	2013年9月	全国語学教育学会・大分部 Second Annual Oita JALT Language Teaching Symposium（9月19日）	日本のコミュニケーション言語教育と新カリキュラムについて発表。南クイーンズランド大学院の卒業論文に行ったデータの説明やコミュニケーションを中心する教育方法などについて話をした。そのあと質疑応答を行った。
4. The divide between pedagogy in EFL high school classrooms in Japan and what it means for university teachers	単	2017年1月	関西学院大学理工学部のファカルティ・ディベロップメント発表会（1月17日）	日本のコミュニケーション言語教育と新カリキュラムのインプリメンテーションについての論文。教育における授業を企業でどのように生かすことができるのか、という問題について調査し、教員の意見をまとめた。また、推奨するカリキュラム、及びクラス別の差についても述べた。
5. The divide between policy and practice in EFL high school classrooms in Japan	単	2017年7月	20th International Conference on Teaching, Education and learning, University of Barcelona, Spain（7月25~28日）	日本のコミュニケーション言語教育と新カリキュラムのインプリメンテーションについての論文。教育における授業を企業でどのように生かすことができるのか、という問題について調査し、教員の意見をまとめた。また、推奨するカリキュラム、及びクラス別の差についても述べた。
6. Incorporating translanguaging in EFL university classrooms.	単	2018年1月	関西学院大学理工学部のファカルティ・ディベロップメント発表会（1月15日）	日本語と英語を一つの言語システムとして捉え、学生がアクセスできる資源として使えるというトランス・ランゲージングについて発表した。二つの言語を使い分ければ、より学生の理解力が高まるという。4つのクラスに調査し、2つのクラスでトランス・ランゲージングを使って、残りの2つのクラスでは使わずに、学期末のテスト結果や英語プレゼンの結果について分析し、その研究の結果を述べた。その後、質疑応答を行った。
7. Applying translanguaging techniques in Japanese EFL settings.	単	2018年4月	IAFOR: The Asian Conference on Language Learning, Arts Centre of Kobe（4月 27-29日）.	トランス・ランゲージングについて発表した。二つの言語を使い分ければより学生の理解力が高まるという。4つのクラスで調査し、2つのクラスでトランス・ランゲージングを使って、残りの二つのクラスでは使わずに、学期末のテスト結果や英語プレゼンの結果について分析し、その研究の結果を述べた。
8. Discovering what approaches work in	単	2018年7月	The 21st PGECR Symposium,	オーストラリア人の研究者に、日本の社会・文化や教育の違いを説明し、日本人向けの授業を行うためのアドバイスを述べた。その

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
Japanese EFL classrooms: Considerations for teaching and learning in Japan.			University of Southern Queensland Springfield campus (7月 27日)	後、質疑応答を行った。
9. Improving communication and increasing motivation through the incorporation of translanguaging.	単	2018年9月	JALT CUE Conference, Rikkyo University, Tokyo. (9月15 - 16日)	日本語と英語を一つの言語システムとして捉え、学生がアクセスできる資源として使えるというトランス・ランゲージングについて発表した。二つの言語をクラスで使い分ければ、学生の理解力がより高まるという。4つのクラスを調査し、2つのクラスでトランス・ランゲージングを使い、残りの2つのクラスでは使わず学期末のテスト結果や英語プレゼンの結果について分析し、その研究の結果を述べた。そして質疑応答を行った。
10. Integrating L1 in L2 classrooms to increase motivation, comprehension, and the communicative abilities of Japanese learners.	単	2018年10月	Otemae University and Kobe JALT Joint Symposium on World Englishes, Bilingualism and Cross-Cultural Education (10月 21日)	L1とL2と同時に使えば、より学生の理解力とモチベーションを高めることができると主張。4つのクラスを調査した。2つのクラスでトランス・ランゲージングを使い、残りの2つのクラスでは使わなかった。トランス・ランゲージングを取り入れた方がコミュニケーション率の増加と、モチベーションが高まったという結果を述べた。
11. Code-switching in Japanese EFL praxis: How translanguaging can benefit language learners.	単	2019年2月	The 7th Bremen Symposium on Language Learning and Teaching at Universities. University of Bremen, Germany (2月28日~3月2日)	日本の大学生にとって、習得言語だけを使用する授業より母国語である日本語をある程度取り入れたほうが効果的である、と主張した。
12. Reflecting on research' How research findings shaped pedagogical practice	単	2019年6月	The 23rd PGEER Symposium, The University of Southern Queensland, Springfield Campus (6月28日)	言語教育に関する研究の結果を通じて、学生は、英語でコミュニケーションを図るときに不安があることが判明した。その結果を利用して、効果的な授業を行うことができるようになった。この発表では当研究のデータを公開し、新たな教授法を紹介した。
13. Translanguaging Benefits in Japanese EFL classes	単	2019年11月	全国語学教育学会第45回年次国際大会 (名古屋) JALT 45th International Conference. WINC Aichi, Nagoya. (11月1-4日)	L1とL2と同時に使えば、より学生の理解力とモチベーションを高めることができると主張。4つのクラスを調査した。2つのクラスでトランス・ランゲージングを使い、残りの2つのクラスでは使わなかった。トランス・ランゲージングを取り入れた方がコミュニケーション率の増加と、モチベーションが高まったという結果を述べた。
14. Translanguaging: Theoretical and Pedagogical implications in the Japanese ESP classroom	単	2020年9月	JALT College and University Educators SIG Conference 2020, Kumamoto. (9月 17)	学生は専門知識を身につけているが、英語で伝えるレベルが低いという。専門用語やプレゼンテーションレベルを高くするため、そしてニーズを理解させるため、学生の就職先について考えなければならない。トランス・ランゲージングを使って、より学生の理解力とモチベーションを高めることができると主張。
15. Translanguaging approaches in Confucian contexts, a case study from the	単	2020年11月	The 18th AsiaTEFL International Conference. KINTEX, Goyang,	アジア地方の学生の外国語能力がヨーロッパに比べてレベルが低いという。レベルを高くするため、学生にニーズを理解させるため、学生の文化を考慮しなければならない。トランス・ランゲージングを使って、学生の理解力とモチベーションをより高めることができると主張。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
Japanese university classroom. 16. Transitioning from high school to university EFL classes: Student voices	単	2020年11月	South Korea (11月26-30日) 全国語学教育学会第46回年次国際大会【筑波】 JALT 46th International Conference, Tsukuba Convention Center, Tsukuba 11月16-23日	学生が高校から大学へ進学した際、英語の授業でいろんなプレッシャーを感じる。高校生の時の授業と大学生の授業ではどのような違いがあるのか、そしてどのようなプレッシャーを感じるのかについて発表した。その結果、授業のながれや、コミュニケーションの仕組みに関する不安と英語を勉強する目的がわからないことで、勉強に関する影響がある。
17. Assisting in Transition: Translanguaging for New University Students	単	2021年9月11日	JALT College and University Educators Online SIG Conference 2021	学生が高校から大学へ進学した際、英語の授業でいろんなプレッシャーを感じる。高校生の時の授業と大学生の授業ではどのような違いがあるのか、そしてどのようなプレッシャーを感じるのかについて発表した。その結果、授業のながれや、コミュニケーションの仕組みに関する不安と英語を勉強する目的がわからないことで、勉強に関する影響がある。その不安を対策するためにクラスルームにトランス・ランゲージを生かして、学生のコミュニケーション力とモチベーションを高めるという。
18. Bilingual Approaches to Support Japanese EFL Learners	単	2021年11月26日	The 28th PGECR Symposium, The University of Southern Queensland, Toowoomba Campus (11月26日)	日本人学生の外国語学習をサポートするために、日本語と英語を使えば使うほどより学生のモチベーションと理解力を高めるという。この発表で、授業の準備の仕方から教える方法までいくつかのヒントと思考すべきものを紹介した。
19. Integrating L1 in L2 Classrooms: A Translanguaging Approach	単	2021年12月3日から5日	19th AsiaTEFL International Conference, JW Marriott Hotel, New Delhi, India (On-site and Online Conference).	外国語の教室にL1とL2と同時に使えば、より学生の理解力とモチベーションを高めることができると主張。日本のESPクラスにトランス・ランゲージングを取り入れた。その結果学生コミュニケーション率の増加と、モチベーションが高まったという結果を明けらかにした。このプレゼンテーションでは、どうやって授業を行ったのかを説明し、学生の学期末の調査のデータを紹介した。
20. The State of EFL Education in Japan	単	2022年2月26日	The 33rd Spokane Regional ESL Conference, Spokane, Washington, USA.	現在の教育指導要領のポリシーと教室内の行っている英語教育の差について発表。英語コミュニケーション能力を高めるための教える方法も紹介した。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2006年5月から現在	Japan Association for Language Teachers
2. 2006年6月から現在	Asian Studies Association of Australia
3. 2006年6月から現在	Japanese Studies Association of Australia
4. 2007年6月から現在	Victorian Institute of Teaching
5. 2017年4月から現在	Japan Association of College English Teachers
6. 2020年4月から現在	Asia TEFL